



ねえ、どれがいい？

ジョン・バーニンガム 作

まつかわまゆみ 訳

評論社 1983年 1300円

「ねえ、どれがいい？」という問いかけのあとに、いろいろな選択肢が次々としめされます。「へびにまかれるの」「魚にのまれるの」「わにに食べられるの」「さいにつぶされるのとき」というように、そのどれもが、奇想天外でおかしなものばかりです。



ねずみのマウスキンときんいろのいえ

エドナ・ミラー 作

今泉吉晴 訳

さ・え・ら書房 1980年 1000円

ねずみのマウスキンは、ある夜、かぼちゃの提灯を見つけ、そこに住むことにしました。中は快適で、マウスキンはすっかり気に入ります。やがて、寒い冬がくると、森の動物たちに、この家では冬越えは無理だと言われてしまいますが…。シリーズには「ねずみのマウスキンとふゆのぼうけん」などがあります。



野うさぎのフルー

リダ・フォシェ 文

フェードル・ロジャンコフスキー 絵

いしいももこ 訳編

童話館出版 2002年（初版1964年福音館書店）
1500円

野うさぎのフルーは、速い足や大きな耳といった「三つのおくりもの」を使って、森で暮らしていました。ある時、フルーは娘うさぎキャプシーヌと出会います。大きな危険と長い冬を乗り越え、やがて2匹の間には愛が生まれます。